算数科の少人数指導に生かせるカウンセリング手法

渡邉　真宏

この研究は・・・

算数科の少人数指導にカウンセリング手法を取り入れ、自己表現力、児童と教師・児童同士のコミュニケーション能力、授業中における自己存在感・成就感の向上を目指した実践的研究です。

全体的な実態 → 人間関係の固定化 ⇩ 固定的な見方 → ○自分の意見が言えない ○自分で考えようとしない ○友達の考えに流されてしまう。

不登校傾向にある児童の実態 → ○自分から友達の輪の中に入っていけない。 ○基礎学力が身についていない。

課題：授業を通して、自己表現する喜びを高め、自己存在感を向上させるにはどのようにしたらよいか。

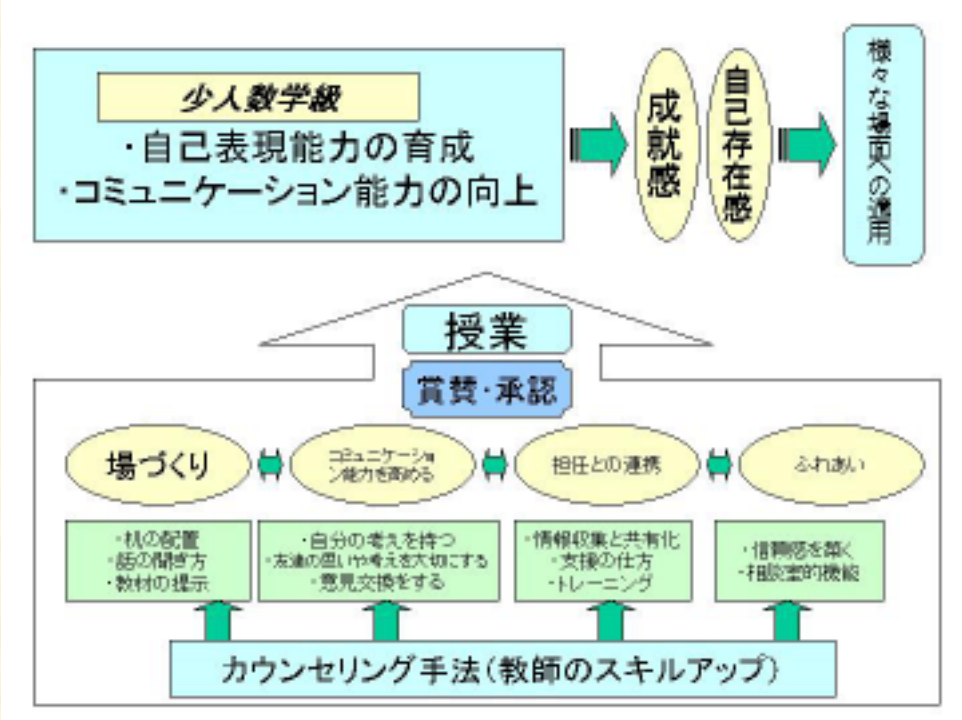
解決に向けて：

少人数指導でできること

①個の考えをいかに引き出し、交流させ、授業に生かしていくか。
②認める活動・承認の場を作っていく。

☆傾聴、承認、シェアリングの円環的サイクルの確立

成就感・自己存在感を高める授業のイメージ



実践では

Ⅰ　子どもの能力や実態に合った授業の工夫

○　レディネスを把握しながら、課題解決学習を実施することで、児童に「分かった」という気持ちがうまれました。

Ⅱ　自己表現能力やコミュニケーション能力の向上

○　自分の考えが素直にもてるよう、「自分らしい表現のしかた」で表現しました。表現できたことを承認しながら進めたことで、児童に自信がうまれました。

Ⅲ　担任との連携

○　担任との日常の会話や手紙を通して、情報の共有化を図り、多くの視点で、児童をみていきました。

カウンセリング手法を取り入れて・・・